震災前よりも

もっともっと魅力的なまちにしよう！

地震に負けない！「震災前よりも、もっともっと魅力的なまちにしよう」と生まれた震災以降の『新しい安平町』を紹介します！

01 道の駅あびらD51ステーション

震災翌年の4月に開業し、令和2年7月には来場者が100万人を突破。各種ランキングでも上位にランクインするなど、みんなに愛される施設として活躍しています。

02 日本で一番世界に近いまちプロジェクト（あびら教育プラン）

「遊び」、「学び」、「挑戦」を軸とした独自の教育事業をプロジェクト化。その理念を引き継ぎ、教育プログラム「あびら教育プラン」として今も続いています。

03 CFCI（子どもにやさしいまちづくり）

平成30年10月「CFCモデル検証作業」の全国5自治体に選ばれ、令和3年にはCFCI実践自治体として承認。子どもにやさしいまちづくりを進めています。

04 ENTRANCE

復興の未来をつくる拠点として「ENTRANCE」が誕生。各種イベントが開催されるなど多くの人が集うコミュニティスペースです。

05 あびら起業家カレッジ

地域おこし協力隊制度を活用し、起業・創業と移住をパッケージ化。クラフトビールづくりやゲストハウスなど町に新しい賑わいが生まれています。

06 チャレンジショップ、サテライトオフィス

仮設住宅として使われたトレーラーハウスも再利用して誕生した新たな商業施設。店舗やオフィスとして利用され、新たな賑わいをもたらしています。

写真提供：株式会社あわえ

07 オーガニックビレッジ宣言

令和5年現在、全国92市町村がオーガニックビレッジ宣言。北海道では安平町が唯一宣言しました。環境に配慮した有機農業に取り組み、自然にやさしいまちづくりを進めています。

08 早来学園開校

震災後の復興の象徴として令和5年4月に開校。全国に類を見ない地域開放型の学校として、子どもだけではなく大人も学べる「みんなの学校」です。

09 表彰・受賞

- 早来学園（赤レンガ建築賞2023年）
- 子育て世代向け移住プロモーションページ（2022年度北海道ベスト育児制度賞）
- 街の幸福度（自治体）ランキング北海道版第3位（2023年）
- 道の駅あびらD51ステーション 道の駅ランキングトップテン（開館以来4年連続）

10 選ばれるまちへ

震災から復興に向かって、さまざまな取り組みをしてきた安平町。令和5年は、転入者の数が転出者の数を91人も上回り、合併以来最多の社会人口増を記録しました。